

「氷蛭郷」についての考へ

赤 星 直 忠

和名抄に御浦(三浦)郡の郷名のひとつとして「氷蛭郷」がある。「氷蛭」は「ひひる」と読む。三浦方言「蛭」をひーると呼ぶ。「ひーる」と「ひひる」は極めて似ている。「ひーる」は「ひひる」の転化音であると考えられる。しからば古くは蛭を「ひひる」と呼んだのであろう。三浦市南下浦町に「蛭田」の地名がある。今は文字通り「ひるた」と呼んでいるが三浦の方言流に読むなら「ひーるた」であるわけ、即ち「ひひるた」である。

「氷蛭郷」の位置は未決定である。古くから蛭田は氷蛭郷の名残りであろうと考えられてきた。それは蛭の文字に共通点を見とめての説である。今、蛭の方言から考えて、これを同じく氷蛭郷の名残りと考ええる。然らば蛭田をふくむ東京湾岸に氷蛭郷があったとする考は古くから考えられた通りであるとしてよい。

今、この蛭田をふくむ東京湾岸に古墳及び横穴古墳の分布をみると、盛土の古墳は開墾によって失なわれたものが多いと考えられるにしても残存したものを挙げると次の如くである。

- 中里横穴群 (一六穴)
- 菊名白山社境内横穴 (一穴)
- 南下浦中学校裏横穴群 (十五穴)
- 蛭田海岸横穴群 (四穴)
- 蛭田六万本古墳群 (三基)
- 金田円福寺わき古墳 (一基)
- 岩浦海岸横穴群 (四穴)
- 雨崎近かねほり塚 (一基) (一七)

間口七つやぐら横穴群 (八穴)

間口海岸横穴 (二穴)

大浦海岸横穴 (二穴)

松輪海岸横穴 (二穴)

松輪横穴 (二穴?)

これらの古墳は中里から半島南端までの間に分布している。即ちこれらの分布する範囲に古代村落が分布していたと考えることは可能である。これらの地域に「氷蛭郷」を求めるには充分な根拠になる。然るに正倉院文書、相模国天平七年封戸租交易帳に「從四位下桧前女王食封、御浦郡氷蛭郷四十戸、田百九町七段百五十三歩」とある。今、蛭田を中心とする古墳・横穴分布地域を中心として考えて、金田附近の谷間に相当な水田はあるけれども、附近全部を合しても、とうてい百町歩はない。しからばこれを広い範囲に求めねばならぬ。西方三崎町、初声町の方面に求めればある。しかし当時「三崎郷」が存在し、「三崎」はその名残りと考えられる以上、この方面に氷蛭郷をひろげるわけにいかない。そうすればどうしても北方東京湾岸ぞいに範囲の拡大をしなければならぬ。海岸ぞいに北方には旧北下浦村がある。海ぞいの谷間に水田はあるがそれでもないから、北へ北へと拡大せねばなるまい。しかるに野比の北、丘陵を越えたと内川入江が西に深く湾入して地形的にその北方地域との間を断ち切っていた。従って入江の北方と南方とは別地域と考えるのが普通である。入江の南岸は旧久里浜村の地域である。旧北下浦村北端とこれに接する旧久里浜村地域には古墳及横穴古墳が存在する。

毘比羅山 (前方後円墳) (一基) (七)

住吉神社裏洞窟 (横穴代用) (一穴)

伝福寺裏谷横穴群 (五穴)

ふくざく谷横穴群 (一六穴) (七)

とんねる南谷横穴 (一穴)

鑑田谷横穴群 (四穴)

長沢小字四つ田かると山古墳 (一基)

他に八幡字蓼原の畑から埴輪多数出土

これらには新古の別はあるにしてもこれらの附近に有力な村落があったことは充分考えられる。この村落の一つに「久里」があった。その海岸が「久里浜」の名で残っており、「久村」は久里の地名が里を村に変えて残ったものである。即ち氷蛭郷は「久里」部落を北端とし、東京湾沿に半島南端に及ぶ地域であったと考えてよいであろう。

氷蛭郷が松前女王の食封地であったことはこの地が古来何か有力な地域であったと考えられる。入江南岸の古墳・横穴の群集地域中に三浦半島に二つしか存在しない前方後円墳の一基が存在することは、この地域が古く豪族の有力な根拠地であったことを物語るものでなければなるまい。豪族が根拠地とする理由はこの入江に臨むことであり、この入江が対岸房州との間にはたした交通路の要地であった点であろう。後年源頼朝・平家源盛が記に際し、衣笠に籠城した三浦一族が城を落ちのびた際、この入江の南岸を久里浜に至り、ここから乗船して対岸房州にわたったと源平盛衰記が記すのは、南岸沿の路があったことと、久里浜から対岸にわたる海路があったことの一つのあらわれとすることができよう。かくて氷蛭郷は北と南に二つの大きい村落群に分かれていたことが考えられるが、毘比羅山古墳やかろうと山古墳(毘)の如き有力な古墳の存在によって、むしろ北方の村落群に郷の中心があったと考えてよくはあるまいか。

(註) 毘比羅山前方後円墳については横須賀市博物館人文科学研究報告第三号「こんびら山古墳とふくさく谷横穴群」に、かろうと山古墳については同第二号「横須賀市かろうと山古墳」に拠って詳細を知られたい。又三浦半島にある他の一つの前方後円墳については、神奈川県文化財調査報告第十九集「横須賀市大塚古墳」を参照されたい。